

講演会名 にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会主催
新潟大学歯学部 共催
—地域における摂食・嚥下障害への取り組み—

日 時 5月14日（土） 午後1時から4時15分

場 所 新潟大学歯学部 講堂

進 行

1. はじめに 13:00 - 13:10

新潟大学大学院医歯学総合研究科 井上 誠

2. 講演1 13:10 - 13:50

新潟大学医歯学総合病院における摂食・嚥下リハの取り組み

新潟大学大学院医歯学総合研究科 辻村 恭憲

3. 講演2 13:50 - 14:30

地域病院歯科としての取り組みと課題

新潟医療センター 道見 登

4. 講演3 14:30 - 15:00

経管栄養開始後長期間経過した意識障害患者の摂食・嚥下リハビリテーション

医療法人誠心会吉田病院 吉田 英毅

5. 介護用品の展示・紹介 15:00 - 15:30

歯学部小会議室にて研究会メンバーによる各種紹介

6. パネルディスカッション 15:30 - 16:00

講演者を交えたディスカッション 講演者全員

7. おわりに 16:00 - 16:10

にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会 別府 茂

概 要

本講演会は、大学病院，病院歯科，個人病院に勤務する医師，歯科医師がそれぞれの環境下で取り組む摂食・嚥下リハビリテーションの概要を紹介し，加えてそれぞれの病院内外で取られている連携体制やその問題点についての意見が述べられた．大学病院では，多くの職種との連携体制をとっているが連携する個人・病院の体制が不十分であること，新潟医療センターでは長年の実績が歯科からの発信で行われていること，吉田病院では長期療養の患者様の経口摂取に向けた独自の評価法や直接訓練の工夫などの話があった．休憩をはさんだ後のパネルディスカッションでは，フロアからの多くの意見が寄せられ，ケアマ

ネージャーとの関係の取り方，医師会・歯科医師会との関係のあり方，PEGで終末を迎える患者さんについての疑問など，臨床上多くの医療関係者がもつ課題や疑問が共通していることが改めて認識された．今後摂食・嚥下リハビリテーションの部門に多くの方が興味をもっていただくことを願って本会が閉められた．

なお，本講演会の一般参加者（当科スタッフ別）は65名であった．会員入会状況などは別に報告する．

※別紙にアンケート結果を掲載

参加者によるアンケート結果

1. 性別

男性 16 女性 36

2. 年齢

20歳以下 1 21～40歳 29 41～60歳 21 60歳～1

3. 職業

会社員 4 医療関係者 32 学生 12 その他 4

4. 今回の講演会はいかがでしたか

大変よかった 37 よかった 13 普通 0 あまりよくなかった 0
無回答 1

5. またこのような講演会に出席したいと思いますか

是非出席したい 33 都合がつけば出席したい 18 あまり興味がない 0
無回答 1

6. 自由記載

道見先生のお話にあったマップを是非作って欲しい。地域に出ているとどこが評価を行っているのかわからず困っている。

一般演題を行う学術集会も行うといいと思う。

V F等の映像もあり、実際のリハの状況がよくわかった。段階的嚥下訓練食が参考になった。道見先生の調査で、栄養士と歯科医師の連携が少なかったことなど深く考えさせられた。

共感させられるところが多かった。

3者3様でよかった。在宅につながる話があるとよかった。

勉強になった。展示で嚥下食やケア商品も知れてよかった。PEGに対する考え方も聞けてよかった。

コメディカル特集希望

歯科医師と管理栄養士との連携の少なさに驚いた。道見先生のように、連携を多く持って嚥下障害の患者に対応することが必須と感じた。

吉田先生のお話が身近に感じて参考になった。

PEGの話が勉強になった。

新人のため現場における実際の取り組みが聞けてよかった。

今、何が問題なのか改めて認識できた。

会の規模が大きすぎずにお話を近く聞くことができよかった

現在の自分のアプローチに間違いはないことが確信できた。

良い面・悪い面などの現状を知れてよかった。

今後の仕事に役立つと思った。

自分だけでなく、医師・歯科医師も連携を考えていることがわかり、心強かった。

学び始めたばかりだが、PEGなどの問題があることを知り興味深かった。

授業以外にこのような話を聞く機会がありよかった。

退院後の嚥下訓練の実際を知れて勉強になった。具体的な症例があって参考になった。

自分の施設に来る歯科医師も嚥下の話ができる人になったらいいなと感じた。

嚥下リハにはリスクが伴うことを知った。家族との信頼関係が大事であることがわかった。

連携の困難さは感じていたので、辻村先生の話にあった「調整者」としてのコツや具体例があたり教えて欲しい。

地域連携が今後さらに密になるよう、他職種や家族が参加できるような会が増えるといいと思った。

講演会風景

